

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームいなべ
所在地 (県・市町村名)	三重県いなべ市員弁町畑新田五軒家367-1
記入者名 (管理者)	高橋 房子
記入日	平成 19 年 7 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	玄関を入った所に 理念をかいて掲示してあります。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	1日1回でも入居者全員に声掛けしようと職員が目につく所に、掲示して毎日、声掛けに心がけている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	入居時や施設見学時に説明、推進会議でも説明しました。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	ホームの中にまでは、なかなか入ってみえませんが、地域性もあり、できる範囲で気楽に声を掛けられるよう心がけています。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	近隣の人と気軽に話し、入居者の人を知ってもらえるようになりたいと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域のことに取り組む迄の余裕はない	○	地域の支援に迄はとても余裕がないが、見学や入所相談に訪れた人の話には、真剣に聞き 相談に応じている
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が読んで理解し、分担して記入している 分からない所は相談している	○	評価の結果も職員全員で受け止め、話し合い 改善についても 意見を出し合っています
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動や、実態、状況など運営推進会議の時に説明し、質問、意見などを聞き、話し合いました	○	次回、8月19日を予定しています
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や地域包括支援センターの研修に参加して 他の人にも伝達しています	○	研修参加時、市職員の方達と少しでも話をする機会をつくり サービスの向上につなげていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市主催の研修や、ケアマネ連絡会での研修で学ぶ機会があり、参加してカンファレンスで他の人に伝達している	○	今後も続けていき必要な時には活かしていく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで対応が虐待にならないよう話し合い、防止に努めている	○	高齢者虐待防止の研修などあれば参加し、伝達している

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>契約書及び重要事項説明時、分かりやすく説明し、利用者や家族の同意を得ています</p>	○	利用者が長期にわたり、安心かつ快適に暮らせるよう共同生活の場として機能するよう心がけています
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>買い物に同行したり、ドライブ、喫茶店などに出かけ、ストレスがたまらないよう心がけています</p>	○	利用者の言葉や態度から思いを察する努力は職員で話し合い、対応を考えています
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>毎月、家族へ 1ヶ月のバイタル、預かり金の明細、領収書、日々の暮らしぶりの報告、翌月の予定などを送付しています</p>	○	家族などの訪問時には利用者の状況、暮らしぶりを伝えている。心身の状況について、変化や問題点の起きた時、報告しています
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>年1回 家族会を設け話し合う 訪問時などの会話の中から家族の思いを汲み取る様心がけている</p>	○	受付窓口に苦情箱を設置し、管理者及び担当者が苦情にあたる
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>毎月1回のカンファレンスの場で勉強会、職員の意見、要望など話し合っている</p>	○	管理者はグループホームの意義を理解し、全員に徹底されている
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>行事で必要な時は増やしたりして対応が出来るようにしている。急用などのときは、職員どうし話し合って勤務交代を行っている</p>	○	職員は自分の都合の悪い時は代わってもらうからお互い様の気持ちを常に持っている
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>新しい職員には、利用者に紹介し、入社前から顔を出してもらって、スムーズに入ってもらようにしている。又、夜勤は利用者の状況をよく把握してもらってから夜勤に入ってもらっている</p>	○	やむを得ない離職もあるが、出来るだけダメージを与えないよう努力していく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交替で研修に参加している カンファレンスで研修報告をして全員が把握できるようにしている	○ 今後も続けていき、質の向上に努めたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センター主催の研修会があり、市職員や他事業所の職員と交流を持つことが出来、情報交換をして質の向上をはかるようにしている	○ 包括支援センターの方で施設だけの研修や交流会を検討されている
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスはあるが、友達や同僚に話したり、職場の中でも気軽に話せる雰囲気である	○ 構造上、職員が利用者と離れて休憩することは難しいが、用事があるときは、外出は自由にできる
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自担当が決められ、責任を持って働ける カンファレンスの場でも積極的に意見交換もされている	○ 年1回、健康診断を実施している
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	毎日の生活の場で、会話の中から利用者の生活暦、得意だったこと、家族のことなど聞き出しなにを望んでいるか把握するよう努力している	○ 本人の思いや不安、今何を求めているか 話をよく聴くこと本人を受け止めるよう 努めていきたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が困っていること、不安なこと、即時的なニーズが何なのかを聞き、家族の状況を把握する事により思いを理解する	○ 訪問時や電話でも気軽に意見や希望を言って頂ける様積極的に声かけしていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時に本人、家族の思い、状態を確認し 必要なサービスができるか検討している 困難な場合は他の事業所のサービスを紹介する	○	包括支援センターや他のグループホームと連携して出来るだけ必要な支援が出来るようにしていく
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前、家族と一緒に見学に来てもらい、ホームの雰囲気や部屋を見てもらう、他の利用者と一緒にお茶を飲んで話をしてもらって納得して頂いてから入居してもらっている	○	普段使用の衣類、寝具、身の回りの品を持ってきていただき、落ち着いて暮らして頂けるよう取り組んでいる
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々をともに過ごすうち、笑い方、話し方で本人の思いに気づくようになると同時に職員の方も癒されたり、体調を心配してもらったり・・・という関係が出来ている	○	昔の歌の歌詞を教えてもらったり、漬物の漬け方を教えてもらっている
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の思い、日々の様子を伝え、家族の方も気兼ねなく職員に言えるよう雰囲気作り、言葉がけをしている	○	職員がもうひとつの家族であるという思いを分かってもらえるよう働きかけたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月に一度、家族へ手紙を出し、ホームの様子を知らせており、面会時に散歩やドライブなど外出の機会を作って頂く様働きかけている	○	日々の暮らしの写真を家族に渡している
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の文化センターでの催し物、桜祭り、スーパーでの買い物など馴染みの場所に出かけることにより、自分の分かる場所だと喜ばれている 知り合いに会うこともあります	○	家族や友達など依頼があれば近くの駅まで送迎をしている
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人の個性を尊重して食堂での座る位置を決め、回りの人と会話、レクなど和やかな場を持てるよう配慮している	○	其々の得意分野の仕事をみつけ、してもらっている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された方は、ご家族の了承を得て病院へお見舞いに出かけている	○	他の施設に移られた方については、しばらくは様子を見に行くこともありますが、移転先への迷惑も考え行き難いです
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中で声かけ、表情、行動などから一人一人の思いを把握するよう努めている 困難な方は家族・親戚の方などから情報を得るようにしている	○	その日の出勤者は利用者全員に最低1回は話しかける様に決めており表情の変化に気をつけている
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりのお話の中で今までの生活様子など聞いている 家族の方には訪問時に少しずつでも聴くようにしている	○	家族と気軽に話が出来る関係を作るよう心がけていきます
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人のできること、状態を職員全員で把握し、1日のペース、リズムが一人一人に合っているかを考えるよう努めている	○	朝、夕の申し送りを確実にして状態を把握している
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人主体の暮らしを基本に置き、本人・家族の意見を取り入れ、職員全員で意見を出し合い、計画を作成している	○	カンファレンスの時などに、意見やアイデアを全員で考えている
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化、家族・本人の要望の変化があるときは、月1回行うカンファレンスで議題に上げ介護計画の見直しを職員全員で行っている	○	カンファレンスの時などに、意見やアイデアを全員で考えている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1ページに3日分記入できる介護記録、ケアプラン実施表があり、一人一人詳細に記入、確認するようになっている	○	個別ファイルでいつでも全ての職員が確認できる
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況が変わった時など、その都度家族と相談している 家族や友人の面会で交通機関利用の方は駅まで送迎している	○	医療連携加算の件、提携医院と設置の方向で話を進めている
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心してホームで暮らせるよう防災訓練の実施、文化センターでの催しに出かけるなどしている	○	年2回の防災訓練を今後も行っていく
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	2～3ヶ月に1度訪問理容をお願いしている(市内の方)	○	ケアマネジャー連絡会などでサービスの情報や話し合いの機会を持っている
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター主催の研修が月1回あり、勉強や相談の場がある	○	今年度より、地域包括支援センターが2ヶ所に分割され、身近に相談できるようシステムが強化された
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、訪問診療があり 医師と馴染みの関係ができている 本人・家族希望の病院へは家族が通院介助している	○	緊急時及び他科受診の必要があるとき、家族の都合が悪い時は職員が通院介助している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携の医師はデイ・ケアも経営しており、認知症の相談にも応じているので、話がしやすい	○	日常の利用者の姿を把握し、適切な指示や助言をしてもらう
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問診療時、一緒に看護師もみえ利用者と話したりしていく	○	訪問看護もしているので医療連携加算を医師と相談中です
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院が長引くと認知症が進むので早期退院に向け相談に行く。個人情報のこともあり、家族でないと話の出来ない病院もあり、難しくなっている	○	入院時には本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員が見舞うようにしている。家族とも情報交換をする
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか話し合い、支援方法を検討している	○	家族、かかりつけ医と充分話し合い、最善の方法を考えていきたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族と相談し、安心して終末を迎えられるように医療関係とも連携をとっている	○	医療連携加算の件、提携医院と設置の方向で話を進めている
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ベット以外、使い慣れたものを持ち込み、各人が自分に合った部屋作りをしたり、家庭的な雰囲気を作っている	○	新しい住まいでもこれまでの暮らしの継続性が損なわれない様、本人の習慣・好み・プライバシーに配慮する

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の誇りやプライバシーを損ねることのない様、失敗してもさりげなく居室、トイレ等に誘導し、対応している	○ 記録、個人情報などは事務所内に保管されている
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者がいつも自分の思いを訴えることのできるよういつも声か消しているし、利用者其々に合わせた説明をし、支援している	○ 一人一人訴えられる事などを、職員はよく理解しているので、其々に合った対応を心がけている
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活は総て自由にさせていただき、其々のペースで過ごして頂いている	○ 居室でゆっくり1日を過ごされる方、食堂で過ごされる方、色々でいつも声かけて本人に自由に過ごして頂いている
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2～3ヶ月に1度訪問理容に来ていただき、本人の希望に応じた理容をしていただいている	○ 介護度の高い人が多い為訪問理容を利用している 拒否される人は後日再度来て頂く
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に同じ食事をしており、手伝いができる所は手伝っていただき食べたい物を聞いたりして、皆で話しながら食事をしている	○ 介護度高く、準備・片付けなどを手伝って頂くのは困難であるが、職員は一人一人の好みを理解して、食べないものは避けて代わりの物を調理している
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	色々の飲み物を準備しており、好き嫌いに合わせている	○ 職員は一人一人の好みに合わせ嫌いな物は出さないようにして代わりの物を準備している 飲み込みの悪い人にはトロミやゼリーを作って本人の状態に合わせている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意の訴えない人も、昼間はリハビリパンツにし、時間をみてトイレ誘導をしている 職員は一人一人の排泄パターンを把握している	○	出来るだけオムツを当てないよう努力していく
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の順番もなく、希望される方は毎日入浴して頂いている	○	現在は希望者はいないが、夜間に入りたい人は検討していく
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない方には、お茶を飲んで話したり、テレビを見たりして安心して頂ける様心掛けている 昼間は利用者により横になる時間を作っている	○	19時頃に水分補給を兼ねてお茶、少量のお菓子を出して、ゆったりとした気持ちで休んで頂くようにしている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の出来る事を考え、出来そうな仕事をお願いしている 又レクや外出など気分転換を図るようにしている	○	介護度の高い人が多い為、全員同じ様には出来ないが、喫茶店や散歩、レクで出来なくても一緒にいるなど孤独にならないようにしている
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すぐにお金の置き場所が分からなくなったり、盗っていった・貸したなどトラブルがあるため、殆んどの方は所持してないが、持っている人は希望時には買い物に出掛けたり、訪問理容時に自分で払ったりしている	○	小遣い程度のお金は持っていたい人には持ってもらっている
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日には、外気浴・散歩・ドライブなどに行く 喫茶店や季節により花を見に出掛けたり、市民センターの催しなど見に行っている	○	出来るだけ外出の機会を多く作っていく
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族には、外出・外泊は自由であること、特に盆・正月には少しの時間でも家に連れて行ってもらうよう話しているが、あまり実現できてないのが実状である	○	可能な人は、少しの時間でも家に帰る機会を作ってもらおうと話していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも家族に電話して、自由に話をしてもらっている	○	家族、知人などからの電話はいつでも大歓迎ですと話し、どんどん掛けて頂く様話している
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、知人などの訪問は利用者の1番の喜びでもあるので時間に関係なくいつでも気軽に訪ねていただき、茶菓子を出してゆっくりとして頂けるようにしている	○	都合のいい時間に来て頂けるよう面会時間は設けてない 足のない人には最寄の駅まで送迎もしている
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないことを職員全員が認識しており、身体拘束のないケアを実践している	○	今後も、身体拘束のないケアを実践していく
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊で出て行かれる方がるので玄関は鍵を掛けているが、外に出たい希望があれば、開けていつでも出られるようにしている 又、目の届くベランダの戸はいつでも出られるようになっている	○	近所の人とも顔なじみになり、出かけても暖かく声を掛けてもらっている 万一の場合連絡してもらえる関係にしている
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録などの事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている	○	姿が見えない人は、さりげなく巡回して所在や様子を把握している
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は事務所内で管理されている 洗剤や刃物など注意の必要な物は管理場所を決めて実行している	○	隠すばかりではなく、台所に入っていく時は目を離さず一緒にいるか、さりげなく他に移動させる
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故の起きた場合、事故報告書を作成、気がついたことは気軽に話し合い今後の対策に繋げている	○	月1回のカンファレンス時に全員が集まり話し合っている それ以外でも日常的に出勤者で話し合っ連絡帳で全員に分かるようにしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	総ての職員が、応急手当の研修をうけており、消防署の協力を得てホーム内でも勉強会を実施している	○	総ての職員が対応できるよう年1回の勉強会を行っていく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練、消火器の使い方など防災訓練を全員参加で行っている	○	秋には地震に備えての訓練を実施する予定
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族への手紙、面会時などで、状況や対応を説明、相談している	○	現状を隠すことなく話し、家族にも現状を分かってもらう様にしている その上で対応策を相談している
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行っているが、その日の様子で食欲や顔色に変化があるときは記録し職員間で共有し対応に当る	○	利用者全員に声を掛けることにより状況変化を見逃さないようにしている
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握できるようケース毎に整理し、服薬時はきちんと服用できているか確認している	○	薬の処方や用量が変更になった場合は、申し送りや連絡帳などで全員に分かるようにしている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為、食事は野菜を多く使うようにし、1日1回は牛乳を飲んでもらっている 又出来るだけ水分を多く取るようにしてもらっている	○	出来るだけ薬に頼らないように、散歩や身体を動かす機会を設けて自然排便を促すよう努力している
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけ、必要な人はうがい、歯磨きの介助を行っている	○	就寝前には義歯の洗浄を行っている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスに心掛けて調理している 一人一人の摂取量は毎回チェックして 記録し、職員全員が把握している	○	好き嫌いのある人には代替りの物を出して食べられる工夫をしている むせたり、飲み込みの悪い人はミキサー食、お茶ゼリーなどその人にあった工夫をしている
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を利用者、職員全員行っている 感染症流行時の対応を全職員に周知し、予防している 常に寝具類の日光干し、居室の換気扇、エアコン、ベッド周りの掃除をこまめにし、清潔に心掛けている	○	感染症発生状況の情報収集に努め、感染症に対する予防や対策をしている
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品は賞味期限を確認し、常に新鮮で安全な物を使うようにしている 残りの点検を行い置き場所を分けて前の物が残っていかないようにしている	○	調理器具、台所の衛生を保つよう掃除、消毒をこまめにしている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花を植え、明るい雰囲気作りをしている	○	花壇、ベンチ、プランターなどで季節感を演出し、入りやすい工夫をしている
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と台所の仕切りがなく、食事の準備している様子が見え、匂いがしてくる 職員からばかりではなく、利用者から職員は何をしているか分かり安心感を与えている	○	居間の壁に折り紙などで季節の表情を表し、廊下には外出や日々の生活の写真を貼って、その時のことを思い出しってもらうようにしている
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファや長いすがあり、畳の間がある 自由に好きな所で過ごしたり、気のあった人同士でおしゃべりしている	○	食堂に置いてあるソファは常に利用者のお気に入りになっている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	ベッド以外は使い慣れた物を持ってきてもらい、各自が自分 に合った部屋作りをしている	○	ぬいぐるみ、ラジオ、花、時計、工芸品、アンカなど様々で す 居室前には本人の習字や塗り絵などを部屋が分かる ように貼ってある
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	各部屋に換気扇が取り付けられてある 毎朝起床後は居室 の窓を開け、空気の入替えを行っている	○	エアコンは利用者の訴えや様子を見ながらこまめに調節し ている換気扇、空気清浄機、消臭剤などで悪臭が出ないよ うにしている
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	手すりの設置、 本人の活動性を維持する為に、車椅子・ 歩行器など個人の状態に合わせて取り入れている	○	廊下の幅が広くゆったりと行き違ふことができる、床材ニクッ ション性のある材料が使用され、転倒にもケガを小さくする 配慮がしてある
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	部屋の前に本人の習字や塗り絵などを分かるように貼ってあ る トイレ、居室は分かりやすいようにはっきりと書いてある	○	分からない時はその都度、やさしく説明している
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	裏庭にテーブルと椅子を設置してあり、気候のいい時には食 事やおやつタイムに利用している	○	玄関先にベンチを設置し外気浴をしたり、花を摘んだり、 皆で歌を歌ったりしている

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

出来るだけ元気で生き生きと生活して頂きたいので、玄関前に季節の花を多くし、ベンチを設置して 日光浴・外気欲・花見・花摘み・おしゃべり・歌を歌うなど、四季を通じて近所の散歩とともに、外に出る機会を多くするよう努力しています。又、ドライブや喫茶店など出掛ける事で利用者の顔が明るくなり、職員も元気になるような気がします。花を摘んで自室に飾るのを楽しみにされている方もみえます。外にいと利用者の知り合いの方が通りがかりに立ち寄ってくださることもあり、効果は大きいと思っています。